

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Course duration	2020/09/28 ~ 2020/11/19		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587041301	科目番号 / Course code	05870413
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 13711_005		
授業科目名 / Course title	a9市民運動・NGOと核兵器廃絶COC / Civil Society / NGO and Abolition of Nuclear Weapon		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	中村 桂子 / Nakamura Keiko, 川崎 哲 / Tetsu Kawasaki		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	中村 桂子 / Nakamura Keiko, 川崎 哲 / Tetsu Kawasaki		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakamurak nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター (RECNA)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー/Office hours	毎週木曜16:30 ~ 18:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	このクラスでは、核兵器をめぐる日本と世界の動きの中で、市民運動やNGOがどのような役割を担ってきたのかを学びます。民主主義における市民社会の役割と位置付けを概観したのちに、過去と現在におけるいくつかの特徴的な市民・NGOの活動の例を取り上げ、その背後の理論、成果、残る課題等について検証します。核軍縮に限らず、さまざまな国際問題に関心のある学生、将来国際機関やNGOで働くことを視野に入れている学生、一人の人間として社会に対して何ができるのかを模索したい学生、いろいろな問題関心のある学生に対応した授業となっています。		
授業到達目標/Course goals	核兵器をめぐる市民運動とNGOの動きについて全体的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分で考え、それを説明できるようになることを期待します。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course ( pick 1 to 3 )	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動  / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動  / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動  / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動  / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法  / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above グループワークの一環として、インタビューを含む調査活動を行う。 F. 教員からの講義のみで構成される  / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席点及び講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。グループワークへの参加は必須です。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	グループに分かれての調査活動を行います。		
キーワード/Keywords	核兵器、市民、市民社会、NGO		
教科書・教材・参考書/Materials			
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	全回出席が原則。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks (URL)			

学生へのメッセージ/Message for students	核兵器廃絶は国や国際機関だけが取り組んでいる課題ではありません。この授業をきっかけに、核兵器の問題を一人一人の問題としてとらえ、今の世界を少しでも良くするために個人やグループとしてあるいは地域として何ができるか、を考えていきたいと思います。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N )	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	川 ｱ 哲/ピースボートの共同代表としての経験を有している。/「核兵器のない正解」の実現というグローバルな目標に対し、日本と世界の市民社会がどのように取り組んできたか、とりわけ被爆者の声がどのような影響を与えてきたのかについて歴史的背景や意義、直面している課題について学び、そこから地球市民の一人として自分に何ができるかを受講生一人一人が考えることを目指す。ピースボート共同代表である本講師は核兵器廃絶に取り組む国内外のNGOの取り組みを20年以上に渡ってけん引してきた、この分野における第一人者であり、理論的支柱でもある。現在は核兵器禁止を求めるNGOの国際ネットワーク「ICAN(核兵器禁止国際キャンペーン)」の国際運営委員としても幅広い活動を行う。また核問題の解説書の執筆でも知られていることもあり、理論と実践の両面から核問題について授業を実施する。/ 中村 桂子/核兵器廃絶研究分野、特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長の実務経験を有する/特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識を講義により教授する。/
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	授業の進め方について 「市民社会」とは何か
第2回	市民社会は世界を変えたのか ?対人地雷兵器禁止の例から?
第3回	原水爆禁止運動の誕生と発展
第4回	広島・長崎の被爆者の運動
第5回	アジアの中の日本 ?市民社会の連携を考える?
第6回	グローバルな核兵器廃絶運動の今
第7回	核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み
第8回	「科学者の社会的責任」とは?
第9回	日本の役割とNGO
第10回	若者による運動
第11回	グループ発表
第12回	グループ発表
第13回	グループ発表
第14回	グループ発表、全体の講評
第15回	まとめ：私たちにできることは?

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2020/11/25 ~ 2021/02/05		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587042501	科目番号 / Course code	05870425
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 13741_005		
授業科目名 / Course title	a9文学・芸術と核兵器 / Arts, Literature and Nuclear Arms		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 山上 徹二郎 / Tetujirou Yamagami, 赤木 幹子 / Mikiko Kanko, 中 村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 山上 徹二郎 / Tetujirou Yamagami, 赤木 幹子 / Mikiko Kanko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟31 / RoomA-31		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	2年次、多文化、経済、教育、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shirose nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日4限およびアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様 々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認 識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考え る。同時に、「被爆地ナガサキ」がどのように描写され、それについて、現在長崎で学ぶ学生がど のようにその意味を発信できるのか、各自が考察する。		
授業到達目標/Course goals	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、?@現状を理解し、?Aその背景にある核兵 器の存在に対する認識・見解を検討し、?Bそれに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現する ことを目的とする。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけ て欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの 積極的な参加、意見の発表等、平常点が60%、期末の成果物(通常のレポート以外に、絵本、紙芝 居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています)が 40%です。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法 ) / Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	授業で指定された本、コミック、映画等を事前もしくは事後に読み、あるいは視聴し、感想やレポ ートを提出する。対象となる文学作品、芸術作品を「読んでいる」「見ている」ことが前提となる 講義なので、十分な事前・事後学習(最低各2h)が必要である。		
キーワード/Keywords	核兵器、芸術、認識、メディア、被爆地ナガサキ		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書：未定、追って指定します。 教科書以外に、ブックレポートの課題が出された場合は、対象の本は必読となります。参考書は下 記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随 時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。  長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版		
受講要件(履修条件) / Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考（URL）/Remarks（URL）		
学生へのメッセージ/Message for students	文学、芸術は、講義で説明を聞いているだけで理解できるものではありません。できるだけ積極的に戦争、平和、核兵器をテーマとした映画、ドラマ、コミック、絵本、小説等を自分で見たり、読んだりするように努めてください。	
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience（Y / N）	Y	
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	広瀬 訓/1993年～1995年の2年半外務省に出向し、軍縮交渉に従事。軍縮条約の交渉、作成や再検討を担当/国際会議における実際の軍縮交渉について経験を踏まえて講義する他、軍縮交渉における各国の立場やその理論的背景等を実際に体験したエピソードを使って解説する。また、実際の紛争や国際問題を用いて、学生に交渉から条約の作成をシミュレートさせることも試みている。/	
授業計画詳細 / Course Schedule		
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents	授業手法 / Lesson method
第1回	はじめに：授業の進め方（広瀬 訓） 1. 文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」	A D
第2回	2. 文学・芸術の持つ力（広瀬） ・作品の背景と読解 ・作品を理解するとはどういうことか ・扇動と芸術 ・意図と効果	A D
第3回	3. 他人に伝えるということ（赤木かんこ） ・他人に伝わる文章 ・読書感想文の書きかた	A B C
第4回	4. 絵本に描かれた戦争（赤木かんこ） ・テーマ、キーワード、ブックトーク	A B C D
第5回	5. 原爆と映画：その1（山上徹二郎） ・「映画」というメディアの特徴と影響について	D
第6回	6. 映画の持つインパクト（山上徹二郎） ・人を動かす「力」	A B C D
第7回	7. 戦争と平和の文学と芸術（広瀬） ・文学と絵本が描く戦争と平和 ・戦前の日本の文学とコミック（「少年倶楽部」と「のらくろ」）	A
第8回	8. コミックに描かれた戦争と平和（広瀬） ・何を伝えたかったのか（「ジパング」） ・メッセージとテクニック（手塚治虫、水木しげる）	A D
第9回	9. 戦争と平和の児童文学（赤木かんこ） ・児童文学は平和を描いてきたか	A C D
第10回	10. ヒロシマ・ナガサキの児童文学（赤木かんこ） ・児童文学は原爆をどう描いたか	A C D
第11回	11. コミックに描かれた核兵器（広瀬） ・感情的表現と論理的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）	A D

第12回	12.新しいメディア（広瀬） ・デジタルメディアと核兵器 ・NagasakiArchive という挑戦	A C D
第13回	13.メディアの功罪（広瀬） ・「戦うマンガ」 ・ジャパンアニメ・バッシング	A B
第14回	14.発信力としての芸術 ・何を、どう伝えるか？	A B C D
第15回	15.まとめ（広瀬 訓） ・メッセージとメディア：発信するために	A B C D
第16回	期末レポート提出	A C D

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 金 / Fri 3
開講期間 / Course duration	2020/04/08 ~ 2020/06/04		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587055701	科目番号 / Course code	05870557
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15481_005		
授業科目名 / Course title	a9核と平和を科学する / Science for Nuclear Energy/Weapons and Peace		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro, 冨塚 明 / Tomiduka Akira, 中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	鈴木 達治郎 / Suzuki Tatsujiro, 冨塚 明 / Tomiduka Akira		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟32 / RoomA-32		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	多・教・経・薬・水 核兵器問題における科学技術的側面に関心のある人文社会系学生。自然科学系学生で核兵器問題に 関心のある学生。		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	鈴木達治郎, suzukitatsu nagasaki-u.ac.jp, 冨塚明, tommy nagasaki-u.ac.jp, 中村桂子, nakamurak nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター (RECNA) 鈴木教授室、中村准教授室		
担当教員TEL/Tel	鈴木達治郎 (095-819-2947)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火、木、午後4:00~6:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	核兵器問題を科学技術的側面から学ぶことがこの講義の中心。核兵器の仕組みや核物質、ミサイル 技術などの基礎知識を学ぶとともに、科学者の社会的責任や科学技術の軍事転用を防ぐ仕組みも学 ぶ。		
授業到達目標/Course goals	核兵器問題における、科学技術的側面の基本的知識を学ぶ。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけ て欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	レポート 80% (40%x2), グループ発表 20% (10%x2)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法 ) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	授業で指定された、文献や新聞記事などをあらかじめ予習。講義の最後にレポートを提出。予習、 復習に各2h以上。		
キーワード/Keywords	核兵器、核物質、原子力平和利用、核不拡散、ミサイル技術、科学者の社会的責任、科学技術の軍 事転用。		
教科書・教材・参考書/Materials	参考図書は授業のはじめに紹介するが、次の2冊は入門書として参考になる。山田克哉「核兵器の しくみ」(講談社現代新書)、ニュースなるほど塾「常識として知っておきたい核兵器と原子力」 (KAWADE夢文庫)		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites	特になし。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的 障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートにつ いては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい 。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks (URL)			
学生へのメッセージ/Message for students	核兵器問題、科学技術の軍事転用に関心のある学生、ぜひ参加してください。		

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N )	Y
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づ く教育内容 (実務経験のある教員による授業科 目のみ使用) / Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション(自己紹介)鈴木達治郎、冨塚明
第2回	エネルギー技術と社会:鈴木達治郎
第3回	放射能と被ばく:冨塚明
第4回	放射線とその利用:冨塚明
第5回	核兵器とその仕組み:冨塚明
第6回	核兵器開発の歴史:鈴木達治郎
第7回	グループ討論(1):エネルギー技術と社会、放射能・放射線、核兵器歴史 からトピックを1つ選 んで発表
第8回	原子力発電と福島事故:鈴木達治郎
第9回	核燃料サイクルとは何か:鈴木達治郎
第10回	核拡散を見逃さない:鈴木達治郎
第11回	核実験を見逃さない:冨塚明
第12回	核兵器をなくす:冨塚明
第13回	核物質をなくす:鈴木達治郎
第14回	科学者の社会的責任:鈴木達治郎
第15回	グループ討論(2):原子力発電、核軍縮・不拡散、科学者の社会的責任から1つ選んで発表